

しんぎよう

真楽寺報

浄土真宗本願寺派（西本願寺）

令和七年九月

至心ありて安楽国に生ぜんと願しんしん あんらくこく しようずれば、智慧あきらかに達し、功ちえ たつ徳殊勝なることを得べしとくしゆしやう

（信心を得て、安楽浄土に生まれることを願うものは、明らかな智慧と勝れた功德を得ることが出来るのである） 『仏説無量寿経』

今年も燃えるような日が続く夏でした。毎年最高気温の更新が続きき、この先どうなるのやらと不安になる昨今です。大気の温度は上昇を続け、海水温度も下がらず、適度に保たれていたいのちの環境が、悪い方へどんどん変化していつています。

「火宅」という言葉があります。

安住の場であるはずの家が燃えるというのはとても恐ろしいことですし、辛いことですが、これは、お経の中にわたしたちの生きる世界を譬えられる言葉です。火といつてもいろいろな火があります。火は人間生活に欠かすことが出来ないものですが、それが生活を脅かす様々な火、火

事、火山の噴火、戦火、となつてはそれぞれの人生に苦痛を与えてしまします。そして、自らの身の内にある火、尻に火がつくこともあり、愛欲の炎にさいなまされたり、簡単には静まらない怒りの炎等、眼には見えませんが身を焦がします。今、安らいだ日暮らしをしていても、いつ何時、どのような火が燃えさかるか誰にもわからない、この世はそんな無常の世界です。

身の内に潜み、外を覆う無常の現実に、苦しみ悩み迷い惑う私たちの姿にこそ、真実清浄なる世界、安楽浄土が建立された理由があります。

この世の意味、いのちの意味を見通されたさとりのの仏さまが、そのはたらきとして一切の生きとし生けるもの、あらゆるものを救うと立ち上がつておられます。それが阿弥陀如来という仏さまです。私のこの身を常に照らし包み、護り、真実の世界に導き続けられる如来の真実を聞き開き、浄土をいのちのより所とす

る姿に、如来の智慧、殊勝の功德が現れると、釈尊はお経の中に説かれました。

それにも関わらず、如来の願い、救いののはたらきに背を向けて、虚妄の分別の世界に迷い続ける私たちの姿があります。自らを是とし、他を非なる者として、争いの絶えない世界を造りつづけているのです。そもそも、この世を生きていることは、例えば衣食住の全てに無数のいのちを頂いているのに、その自覚もなく、当然感謝の思いも薄い私たちです。もののいのちを奪い、嘘をついたり、欲をいかたりという悪業を身に重ねながら生きるものに、何が正しい行いなのか、何が悪なのか、本当の正義の意味など解りようがありません。

善悪の問題について、宗祖親鸞聖人は「知らない」と仰います。聖人は、善について、真実の智慧を完成した如来様ほどに知り通したならば、また、悪についても、如来様ほどに知り通したならば、善悪を知っていると言えようけれどもと仰つて、「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界、みなもつてそらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにしておわします」(『歎異抄』後序)と続

けられました。

真実を見極める智慧なき凡夫に、目指すべき清浄の世界が示されたのがお浄土です。

苦悩するものを救うと、凡夫の声となつていのちに響くお念仏、南無阿弥陀仏となつて下さった阿弥陀如来です。この如来のまこと心をいのちに受けて浄土を願う人の姿には、煩惱具足の凡夫のままに、阿弥陀如来の智慧のはたらきがあらわれ、広大な功德が身に備わると仰つてゐるのです。

それは煩惱のままに生きよということではありません。『無量寿経』に釈尊は、真実を見極める智慧のないものだからこそ、仏の説かれた法を聞きながら生きよ、邪悪の者についていくのではないぞ、「人の後（しりえ）にあることを得され、つぶさに仏に問いたてまつれ」とお勧めになります。

如来様のように生きることには出来ませんが、如来様から施され、私たちのいのちに表れる御信心は、凡夫が生きるこの世の中に、ともに、浄土のさとりの道を歩むものとしての、信頼と感謝と報恩の関わりをもたらし下さるようです。

おひがん

秋分の日を真ん中に挟んで一週間は、秋のお彼岸です。欲や怒りや愚痴を抱えて世間に苦悩する私たちの境涯を此岸というのに対して、迷いや苦しみを越えたさとりの世界を彼岸といいます。彼岸の仏様はいのちあるものをさとりに導くはたらかしを示されます。

阿弥陀様、お釈迦様、無数の諸仏、そして私の身近に生きて人生を莊嚴して下さった懐かしい仏さまが、今も私のいのちを御一緒に下さいます。この広大な彼岸のはたらかしを聴聞し讃嘆するのが彼岸会法要です。

◎秋季彼岸会法要御案内

期日 九月二十一日(日)
～二十三日(火)
時間 午前九時半より勤行
引き続き 法話

※二十日(土)午前九時より準備、清掃等行います。ご都合つかれる方はお手伝い下さい。

◎富の原説教所彼岸会法要

九月二十一日(日)

午前二時より

◎念仏奉仕団のお知らせ

令和七年度の京都の御本山、西本願寺での念仏奉仕団の旅を実施します。

御本山での清掃奉仕から兵庫県の東井義雄記念館、城崎温泉、篠山城等を訪れる予定です。お誘い合わせてご参加下さい。

記

期日 十二月四日(木)
～六日(土)
内容 西本願寺での念仏奉仕
帰敬式
東井義雄記念館、城崎温泉
出石、丹波、篠山城等観光
申込 募集要項をご覧の上、
九月十六日(火)までに
お申し込み下さい。
団費 九万九千円

※帰敬式は仏祖の前で浄土真宗の門徒としての帰敬の心を表わす儀式です。「おかみそり」ともいうこの帰敬式を受けて、法名(仏教徒としての名前)を頂きます。まだ受式していない方で、御希望の方は申込書に御記入下さい。
(団費のほかに、帰敬式冥加金として一万円が必要です。)

◎秋の法要のお知らせ

左記の通り『秋の法要』をお勤めします。

お誘い合わせてご参詣下さい。

記

・納骨堂永代経法要
十一月二十二日(土)
午後二時
・聞信のつどい
十一月二十三日(日)
～二十四日(月)
午前九時半
・初参式
十一月二十三日(日)
午前八時四十分
・富の原説教所報恩講
十一月二十三日(日)
午後二時
御講師
本願寺派布教使
末永宗平師
(佐世保市 明照寺)

☆『納骨堂永代経法要』

納骨堂にご縁の方全ての仏徳を讃嘆供養する法要をお勤めします。

納骨堂をご利用でない方も、どうぞ、ご一緒にお聴聞下さい。

☆『聞信のつどい』

不思議なご縁を頂き、この仏法に出遇い、み教えを聞き得たこと、そして、御報謝を重ねて行くことを慶ぶ法要として『聞信のつどい』をお勤め致します。ご家族、法友、お誘い合わせてご参詣、お聴聞下さい。

☆『初参式』 はつまいり

仏様のお慈悲に包まれて生きていく子供、そしてその親、あるいは祖父母としての新たな人生の出発を、如来様に奉告する式です。

受式のお子さんを募集しています。御希望の方は十一月九日(日)までに真楽寺にご連絡下さい。

※秋の法要に向けて境内本堂のお掃除、準備など致します。ご都合つかれる方はご協力下さい。

日時 二十一日(金) 九時から

◎富の原真楽寺(富の原一・四三・四) 親鸞聖人報恩講のお知らせ

富の原真楽寺では、一月の親鸞聖人御正忌に先立ち、お取り越しとして、報恩講をお勤め致します。近隣の方はご参詣下さい。

大村市木場一丁目八五番地二
真楽寺 電話五二一五〇一八

<https://www.shingyouji.com/>